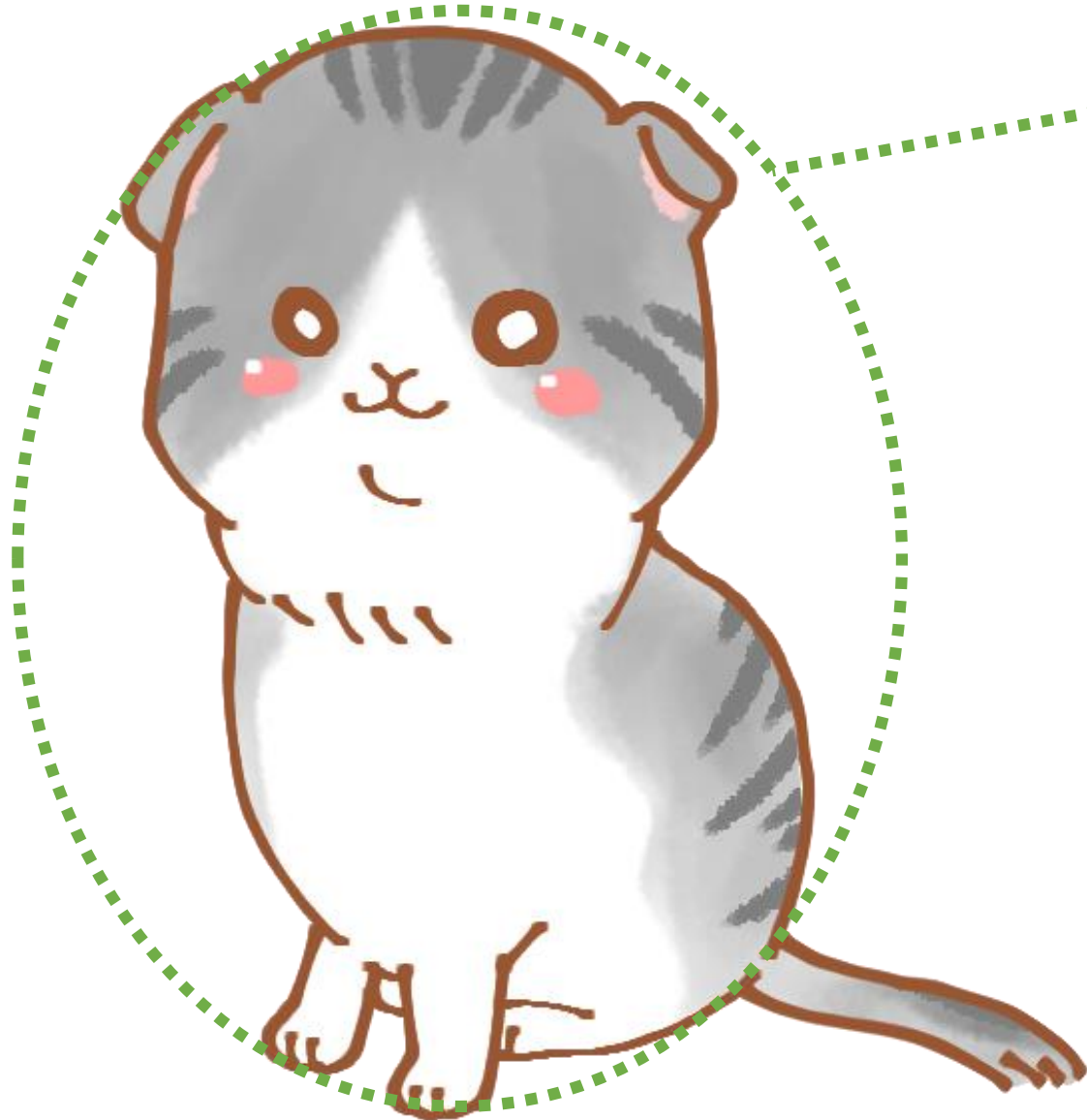


# OCD 骨軟骨異形成



## OCD 骨軟骨異形成とは

前足や後ろ足の足首に骨瘤ができ、脚を引きずって歩くようになったり、あまり運動しなくなったりします。

## 代表猫種

スコティッシュフォールド、マンチカン

## 発症年齢

X線検査による骨異形成はホモ変異で7週齢、ヘテロ変異で6カ月齢から診断可能。

## 変異遺伝子保有率※

スコティッシュフォールドの場合 58.2%

※2016～2020年で検査した株式会社VEQTA のデータより。  
変異保有率とはキャリアもしくはアフェクテッドと診断された頭数を検査した全頭で割った時の割合です。

## OCD 骨軟骨異形成は常染色体優性（顕性）遺伝です。

### ノーマル（クリア） aa

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。

その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

### アフェクテッド（変異ヘテロ接合） Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。ただし、常染色体優性遺伝のため、その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

### アフェクテッド（変異ホモ接合） AA

変異型のみ検出される場合です。その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクが高い**です。変異ヘテロ接合よりも、重症化しやすいと言われています。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、優性遺伝の場合は片側だけでもアフェクテッドとなります。

